

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人で掲げている理念を基に事業所独自の理念は作り上げている。入居者、来訪者にも見ていただけるよう各ユニットや玄関ホールに掲示して解るようにしている。 職員も見つめ直す事で、理念に近づけられるように努めている。		ユニットの特徴を活かした目標設定を行っていきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を念頭に置いて共有に努めているが、実践に近づくには努力が必要。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム便りの発行、御家族との関わりの中で近づけるよう努力している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の親子連れ、保育園児、同法人の入居者が中庭に遊びに来たり、同地区の小学生の来訪で付き合いは見られる。		近隣の方々と互いに励ましあい、励まされる関係を構築したい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	学校行事、施設行事を通じ交流できるよう努めている。 交流は多くあったほうが良いかと思うが、入居者の認知レベルの差が大きく、全てが順風に出来るとは限らない。老人会の参加については入居者状況に変化があり実現されていない。		地域の方々と関係構築がなされれば自ずと機会は設けられるのだと思う。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	相談受付は可能だが、職員状況により対応が困難な場合がある。		どの職員でも対応が可能となるよう各職員の経験や知識を生かす事が大切。法人母体が大きいので法人全体の取り組みも必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>議題の目的を明確化することは必要。地域、ご家族により解り易く興味のある内容のものとしたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>サービスの質を向上させる為には行政との関わりは必要。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>研修機会は逃さず学び得る必要がある。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>これまで通り、職員個々の意識付けと互いに厳しい目を持ち防止に努める。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>理解、納得には数日間のゆとりがあっても良いと思う。説明者となっている職員以外の職員もご家族から質問があった時には説明できるよう学んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱、苦情処理担当者の設定。入居者の意見や日々の言動から本人の意向を掴み職員への周知を迅速にして反映させられるように努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	昨年に比べて生活、健康、金銭の報告はより詳細になっている。職員の異動についてはホーム便りに載せている。他、受診のご家族同行や緊急時の連絡も行っている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	表立っての不満や苦情はない。意見は直ちに受け入れる体制作りは行っており、改善に向けて取り組んでいる。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期職員会議や通常勤務の中で意見交換は行うようにしている。職員一人一人と向き合う時間が取れず、本質的な部分にまでは至っていない。		ベテラン職員、新しい職員という垣根を越えて意見交換がされる雰囲気作りを行いたい。個人面談の機会を設けて反映させたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況変化には出来る限り対応はしているが、人員が限られておりシフト制である為、特定職員に偏り負担も大きい。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	配慮はしたいが新旧職員の引継ぎに十分な時間が取れずダメージを防ぎきれしていない。フォローできるようには努めている。離職については個人の理由であり無理に引き止める事は出来ない。		職員採用時には長期的に勤務できるか否かのみ極めや入職後のフォローも大切。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>経験年数に見合った研修の場は作っているが計画性は薄い。個人参加の研修の場合は勤務上断念せざるを得ない状況もある。業務中の教育については職員各々が尊敬しあい吸収。</p>	<p>職員が積極的に参加意向を示せる環境作りを行いたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>法人内外の研修で時々ある程度。</p>	<p>同一法人のグループホームでの研修交流を行う予定。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員同士が声を掛け合い、相談や助言を行っている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務の状態、経過、努力を互いに評価しあっている。働く職員にとって居心地の良い雰囲気作りも行ってくれている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前訪問による実態調査、見学を行いご本人と直接話す機会を設け不安の軽減に近づける努力はしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族面談を通して介護保険制度の説明や認知症に至るまでの経緯、困っている事を伺い助言の機会は設けている。関わる職員も表情良く話しやすい環境作りに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前提での面談の為、他のサービスについては対応されていない。		入居前提でない場合は対象者の可能性を加味して他のサービス利用と繋げていきたい。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族やご本人の事前見学対応は行っている。数回にわたり見学された事もある。在宅からの入居の場合は事前見学をして頂き入居までの段階を経ることは出来るが、施設からの入居の場合は機会に恵まれないのが現状。		サービス利用前の宿泊体験が実現できれば良いと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の生活歴を参考として得意なことは力を発揮できるよう一緒に行っている。人生の先輩として日々の生活からも尊敬の気持ちを持つよう心掛けている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族との情報交換での関係構築、ご本人とご家族がゆっくり過ごせるような環境を整えている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事へのお誘い、一緒に食事を摂っていただく他、ご家族、ご本人双方の話を伺いより良い関係の橋渡しが出来よう努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の来訪、手紙のやり取りを行ってはいるが一部の入居者のみ。		馴染みの場所への関係が途切れてしまいがちな為、可能な範囲で出かけられる機会を持ちたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事時、余暇活動時の会話を多くし入居者同士の時間の共有を大切にしている。入居者同士の言動の変化に留意し仲介することもある。又、入居者同志声を掛け合い励まし支えあっている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後の機関に委ねている。		年賀状や暑中見舞い等のやり取りが案としては良いと思う。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴、性格の把握。日常会話の中からも意向を汲み取る努力は行っているが十分ではないと判断する。		入居者状態に見合った支援を行い生活に潤いを持って欲しい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族からの聞き取りやライフヒストリー表、事前訪問表を活用。施設内においても可能な限りこれまでの生活に近づけられるよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々変動のある状況下でも柔軟に対応できるよう職員同士での情報交換、申し送りを徹底し総合的な把握に努めている。但し、メンタルケアについては限界を感じているのも事実。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員会議の場で話し合い各担当者とモニタリングを行いプランに反映させている。ご本人、ご家族にご希望を伺える機会は少ないのが現状。		ご本人、ご家族にご希望を伺える機会を作りたい。良いプランが出来る事で良い関わりも持てる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期モニタリング、状況著変時のプランニングを含め行っている。特に状況著変時は関係機関からも情報を頂き反映させている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別アセスメント、連絡ノート、受診記録等への詳細な記入と口頭での情報伝達を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	特別なケースとして長期入院見込みの方への気分転換目的で外出を受け入れて対応した。今後も出来得ることは行いたいだが人員の都合上柔軟さには欠けている。		要望には応えたい。そのためにも事業所として何が出来るのかも考えたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	今後具体化する予定。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現段階では対象になる事はない。必要性に応じては行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議や研修機会以外の関わりはない。連動の仕方が解らない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>掛かりつけ医は事前確認の基決定している。医療連携体制が整っており、適切な医療が受けられていると判断。緊急時の連携も可能。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>二週間に1回専門医師の往診がある。ご本人、職員に状況確認し診断、治療を受けている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>一週間に1回の訪問看護がある。常時連絡体制が整っていて入居者、職員との関係構築もされている。相談事や急変時の迅速な支援を受け、担当医師との橋渡しも担ってくれている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院の際は関係者に施設での生活や対応の仕方を説明し、日常の生活リズムに近づけられるよう情報を提供している。又、担当医、看護師、医療相談員との情報交換や見舞いで入院時の情報を頂き御家族との話し合いのもと早期退院に繋げられるよう努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>状態により話し合われているが一定期間で繰り返し話し合い方針の共有は行われていない。必要性は感じられるものの施設側としては話題設定にくい。</p>		<p>重度化しつつある方に対しては少しずつ今後の方向性についてご家族や担当医師に伝えられるようになってきた。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や今後医療的処置が優先となる事が予測される方に対し、施設側でできるケアを話し合い担当医師やご家族に伝えられるような体制を作りあげつつある。急変時の対応を検討し準備している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		<p>ご本人にとって馴染みの物を持ってきていただく事で安心して過ごせられると言う事を説明していきたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		<p>入浴日、診察日以外の日には存分にご希望に添える工夫をしていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		<p>献立作成は入居者の食べたいものを伺い反映。好みの物、そうでない物も確認し代替も考慮している。個人の能力に合わせた調理下ごしらえ、盛り付けも職員と一緒にやっている。食事を摂りながら楽しい会話が出来よう努めている。</p> <p>調理から入居者に学ぶ事もある。今後、業者を導入し栄養バランスがとれた食事の提供を行う予定。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	咀嚼、嚥下状態に見合った飲食物への考慮。食べられない物がある方については好みの物を提供。季節の果物等も提供し楽しめるようにしている。 他、個人でおやつ管理されている方もいる。		今後も個々の希望に添いたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	水分量、食事を把握し入居者の排泄パターンの確立を行っている。トイレの場所や排泄の仕方が解らない方へも誘導やコツを掴みトイレでの排泄ができるよう努力している。排泄感覚を取り戻した入居者もいる。		オムツの使用は最終手段とし、排泄の表示ができにくい方でも行動サインを掴みトイレで排泄出来る様機能低下に努める。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一部の入居者には行っている。個人入浴を原則として体調、気分に合わせて入浴がされるよう努めたい。拒む方については言葉掛けや職員間で連携をとりスムーズに入浴できるよう努めている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は活動的に、夕方以降は寛げる雰囲気作りに努めている。日中の様子を夜勤者に申し送る事で夜勤者も安眠に繋がれる環境を作る。 又、何処でも休息できるように自室以外にもソファを数箇所設置、中庭にもベンチを設置している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の得意分野、趣味、能力に見合った提供はしていると判断。但し、意欲を持って行っただけのように努め、負担にならないように心掛けている。 入居者の満足感からの視点では不十分と捉える。		個々人の満足感は異なっているが、日常生活そのものを楽しんで頂けるよう努力を要す。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で管理されている方は外出時に好みの物を購入している。		外出時の支払いについてご自分で行なう事で金銭感覚や生活感を呼び込めるよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	気候の良い時期は中庭の散歩、畑作業は自由に行っている。予め計画を立てての外出支援を行い季節を感じていただく機会は設けているが、日常的ではない。降雪時までは外へ出られるが、特に冬場は感染症を懸念し企画できないのも現実。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	予め計画を立て個人の心身機能に合わせた場所の選択は行っている。ご本人より行きたい場所を言葉に出来る方はごく一部。個別にご家族と出かけられる方もごく一部。		行って見たい場所のご希望を伺い行事企画する。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居者の意思に合わせて行っている。携帯電話を使用する方もおり、電話の操作が不十分な方は支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室の他、廊下ソファーや中庭にテーブルを置き、寛げる環境を作っている。面会時間は設定しておらず何時でも来訪可能。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員介護の際に勉強会を開き周知しているが中にはご家族からの要望で安全確保のためベッド柵を使用している方もいる。特に夜間帯の転落リスクの高い方、転倒を回避したい方へのマットコールの使用はやむを得ず行っている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯の防犯目的以外の施錠はしていない。職員は入居者が行方不明等にならないよう出て行く気配等見落とさないように見守っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	生活のリズムを大切にしつつ、職員間での情報伝達を行い所在確認を行っている。夜間は各居室をラウンドする事で安全確認を行っている。いずれも過ごし方や睡眠状態を記録している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に合わせご本人での管理が困難と判断し、危険に繋がるような物は職員で管理している。包丁、洗剤、裁縫道具は注意喚起している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	昨年度の事故件数が多かった事について事故マネジメントを行い、振り返りと考えられるリスク、対策について話し合い再発防止へと取り組んでいる。		マネジメントを行なう事で職員間の再発予防への意識が更に高まった。事故は起こしたくないがリスク、対策についての話し合いは今後も必要。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルに沿うように心がけている。定期的な訓練は必要。急変が考えられる入居者においては予め段取りを設定し備えている。		救急法の訓練を行うよう当法人のグループホーム規模で行う予定。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回訓練の実施。消火器の使用確認と避難方法の確認を行っている。		地震、水害対策と夜間帯の対策について、より詳細に行う必要あり。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	心身の状況をお伝えする際、今後起こりうるリスクについても伝えている。そして出来得る限り状況著変を防ぐ為の対策をとっている事も伝えている。ご本人を尊重しいかに豊かな生活を送って頂けるかご希望も伺っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定、顔色、食欲、活動量を見て職員間でタイムリーな情報共有をして早期対応できるように努めている。必要性を見極めて医療機関にも連絡をしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容、用量について把握、処方変更時にも職員間で周知している。特に精神科薬については担当医師より副作用をよく聞き、変化を見逃さないようにしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	薬に頼りきらずに飲食物の工夫を行いコントロールしている。又は身体を動かしたり腹部の膨満にも着目している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に行っている。拒否の多い方は時間を置く等の対応をしている。		舌苔除去が困難な方についての対処方法を学びたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の水分、食事量を記録している。不足傾向であれば補食を行っている。咀嚼、嚥下状態に合った食事形態の工夫もしている。		栄養バランスの知識は職員其々の知識を高める必要あり、勉強会や研修を受けたい。今後、業者による食材の提供でバランスのとれた食事が出れると思う。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し予防対策に努めている。職員が媒体とならないよう予防。施設内の消毒を毎日行い感染予防へと繋げている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具の消毒は毎日行っている。冷蔵庫内は定期的に掃除し食材の日付の確認を行っている。調理の際の衛生管理も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	開放的な雰囲気作りの為、看板の設置、玄関の開放、花を育て動物も飼っている。整理整頓を心がけ季節感のある装飾にも努めている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	壁には毎月の手作りカレンダーや季節感のある飾り付けをし、空間作りに取り組んでいる。 換気し臭いを断ち消毒も行っている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	好みの場所で過ごせるようユニット内に数箇所ソファを設置している。個人でも複数人でも寛げる場所がある。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	自宅で使い慣れたもの、好みの物を自由に持ってきて頂いている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	こまめに換気を行い、臭い、温度に気をつけている。加湿器、空気清浄機も設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下に手すりを設置、活動の妨げにならない様安全への配慮をしている。施設内は広く、居室内、トイレ、浴室にも介助バーや手すりを設置しており設備には恵まれていると判断する。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者のリズムに合わせてできる事を自信を持って行って頂ける様工夫している。居室、共用部分の大きな環境変化は避け混乱を防いでいる。		混乱、不安が生じた場合、職員同士で良い環境作りを迅速に行うよう努めたい。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	広い中庭で畑を作り花を植える等日常が楽しめる環境を作っている。ウッドデッキを散歩できるよう整備、良い運動、気分転換の場となっている。		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない</p> <p>入居者の言動、表情からサインを汲み取り掴んでいる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない</p> <p>入浴日、受診日は忙しいが終えた後に一緒にゆっくり過ごす時間がある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない</p> <p>一人一人の生活リズムに合わせ、生活歴も大切にするように努めている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p><input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない</p> <p>施設側の一方的なものにならないように努めている。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない	近隣の親子連れや保育園児が主。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	疲れ切っている職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	職員の人員や勤務体制の都合で言えない入居者いると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

中庭が広いので畑作りや花を植えて日常的に季節を感じて頂ける。入居者、職員が個性的で全員の個性を認め合う事で豊かな生活に近づけられています。